

# 定置網の漁獲数量管理に資する駆集システムと水中映像伝送システムの開発

## 富山県地区の取組み ▶

## 開発体制

国立大学法人東京大学 生産技術研究所、  
日東製網株式会社

### 駆集システムの開発

**目的** ホースと網地で構成される魚群駆集システムを開発し、水槽実験によりシステムの最適化と性能の評価を行う(図1)。

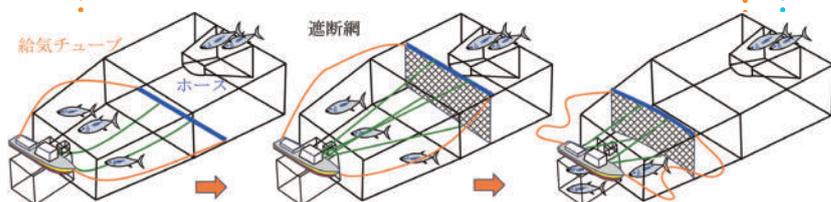


図1 駆集システムの概念図



図2 漁具駆集実験

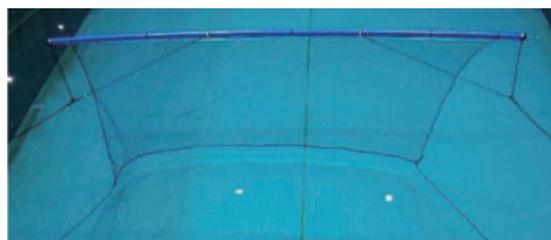


図3 物理性能実験

**成果** 魚群駆集実験の結果では、遮断網を速く引く方が駆集率が上がる事が示唆されたが、キャプスタン等の補助装置の性能、網地の吹かれ等を考慮すると、低速で形状を保ちながら引く方が望ましい(図2, 3)。

### 水中映像伝送システムの開発

**目的** 水中映像伝送システムを開発し、ブリとサワラの行動を把握することを目的として実海域の定置網で実証試験を行う(図4)。

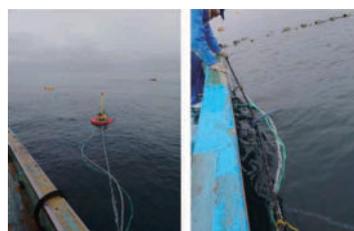


図4 水中映像伝送装置の開発



図5 ブリの観測



図6 サワラの観測

**成果** カメラを底建網の上部に設置したところ、ほぼ確実にカメラに魚群が映るようになった。当初の目的であるブリとサワラの入網を捉えることができた(図5, 6)。

## まとめと今後の課題

本事業で得た基礎技術をもとに、漁具駆集システムと水中映像伝送システムの実海域実証実験が可能となる。これらの技術の組合せ手法および駆集された魚の放流システムについて検討する必要がある。